下落合みどり幼稚園 月報

2026年6月　Vol.69　No.3

新宿区中落合4-3-1　℡3953-6112

「おはよう」

下落合教会牧師　有住航

「おはよう」と言われたので、婦人たちは近寄り、イエスの足を抱き、その前にひれ伏した。イエスは言われた。「恐れることはない。行って、わたしの兄弟たちにガリラヤへ行くように言いなさい。そこでわたしに会うことになる。」

＋（マタイによる福音書二八章八～一〇節）

キリスト教の祝祭日のひとつである復活祭（イースター）は、十字架にかけられたイエスが三日目に「復活」したことを記念し、思い起こす時として定められています。右の聖書箇所には、イエスが復活した直後の様子が描かれていますが、きょうみぶかいことに、イエスが「復活」して女性たちの前に現れたとき、イエスは「おはよう」と何の変哲もない普通のあいさつをしたことが証言されています。せっかく復活したのだから、もっとかっこいいことを言ったり、派手に登場してもいいのに、復活したイエスは誰もが毎日するように、「おはよう」とあいさつするのです。

なんの変哲もない「おはよう」という言葉。でもこの言葉は、大切なイエスが亡くなってしまってもうどうしたらいいかわからない、悲しく暗い気持ちでいた女性たち、喪失と失意という非日常を生きていた女性にとって、いま一番聞きたかった言葉だったのではないかと思います。イエスが発した「おはよう」という言葉を聞いた時、女性たちは生前のイエスと親しく交わしていたあいさつを、そのかけがえのない日々を鮮明に思い起こしたかもしれません。「おはよう」という響きには、痛み悲しんでいる人びとに「日常」を回復させる不思議なちからが込められているように感じます。

「おはよう」というあいさつが当たり前のことではない、そんな現実がいま世界中にたくさんあります。パレスチナ、イラン、レバノンで、これまで当たり前のように交わしていた「おはよう」という言葉がかき消され、断ち切られる現実があります。イスラエル軍による爆撃によって家族や友達が亡くなり、住むところが失われ、仲の良かった人たちと別れ離れにされています。生きているから、いっしょに集まることができるからこそ、わたしたちは「おはよう」とあいさつを交わすことできる、そのことの意味をあらためて考えます。

みどり幼稚園に今日も響きわたるこどもたちの「おはよう」という声には、平和をつくりだす力が込められています。わたしたちも互いに「おはよう」とあいさつを交わしたいと思います。